

あったかいが いいね

# シャローム横浜通信 3月号



## 「支える」から生まれた「頑張りたい」

暦の上では春とはいえ、いまだに寒さが続いておりますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか？

先日(2月5日)の大雪では皆様大変な思いをされたと思います。横浜でも大雪の影響で近隣の保土ヶ谷バイパスや東名高速入口が閉鎖されたことで、周囲の道路が大渋滞して交通機関がマヒしました。これにより、デイサービスの送迎時間が普段の2、3倍かかり、一部の方に配食のお弁当をお届けできなかったりと、ご利用されている皆様の生活に大きな影響が出てしまいましたことに深くお詫び申し上げます。

連日能登半島地震のことは報道されていますが、その中で心に留まった内容を紹介します。

奥能登にある「中島酒造店」は明治から代々受け継がれてきましたが、今回の地震で酒蔵が全壊。そのがれきの中から8代目の中島遼太郎さんは生き残った酒瓶等を助け出す日々を過ごしていました。被害が甚大すぎて前向きになれない状況の中で、店主がある言葉をきっかけに、長年お付き合いのある神奈川県相模原市の奥能登や「時間はかかりますが、奥能登やさんのところにおいしいお酒をまた...お届けできるように...」と

ベルの無い一升瓶を送ったということです。

奥能登の店主 山内香織さんは、「ラベルもない一升瓶のお酒が、能登の中島酒造と奥能登やをしかりとつないでくれている。心だけはそばにいたいことをまた伝えたい」と話され、中島酒造店を応援している。店主の中島さんは「山内さんから、あのメッセージを送る前に『どんな形になっても支えます』っていうメッセージをいただいていた、安心感の中で出たあのメッセージです。みんな『頑張りましょう、頑張りましょう』。もちろん、頑張りましょうという言葉もありがたいんですけど、『頑張りましょう』はもうわかっていく。どんな形であっても支えてくれるって違う言葉をいただいた時に、自分で頑張りたいたいという気持ちに切り替えられる」。

地域では介護に疲れて途方に暮れておられる方は沢山あります。その方々に対して少しでも「支えます」とメッセージをお伝えすることで、皆が自分らしく頑張りたいたいと思うようになっていただければと願っております。

皆様が平和で自分らしく暮らせますようお祈りいたします。

施設長 高原 信夫

## 1月のレクリエーション

春の訪れが待ち遠しい季節になってまいりました。シャロームの庭には、梅の花が咲き始めております。シャロームにお越しの際はぜひご覧になって下さい。

1月のレクリエーションでは絵馬作りを行いました。ご利用者の皆様は、思い思いの絵馬を作られ願い事など書かれておられました。

3階副主任 加藤 啓



第283号

令和6年2月15日発行  
(毎月1回 15日発行)

責任者:施設長 高原 信夫  
〒241-0802

横浜市旭区上川井町 1988  
社会福祉法人アドベンチスト福祉会  
シャローム横浜

編集委員

小林・荒金・石橋  
☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



## EPA 介護福祉士候補生の日本語と介護の勉強



左より  
ロイさん、ハニタさん、ウリさん、中嶋先生

2022 年 12 月に3名が入職してから、1 年が経ちました。週に1日、勉強の日を設けて、3名の候補生は頑張っています。漢字の音読みや訓読み、接続詞、文章の問題など、難しくなってきましたが、一生懸命頑張っていますので、引き続き応援よろしくお願いします。

研修担当 坂本 晋一



## 皆様に春を感じる手作りデザートをお届け



2月4日、栄養課主催の行事食「手作りデザート」では、「苺の花筏風羊羹」を特養のご利用者の皆様へご提供しました。

紅白の梅の花が水面に浮かぶ様子を模した羊羹となっております。

こし餡生で作った羊羹の層には、甘酸っぱい苺が入っています。

当日は立春でしたが、雪の気配を感じさせる寒々しい一日となりました。ご利用者の皆様には、手作りデザートで一足先に春の訪れを味わって頂けたら幸いです。

来月の行事食は、「ラーメン屋台」を予定しています。

栄養課 廣澤 美貴



## マ ラ ナ ・ タ

今頃になると私はいつも思い出すことがある。それは40年くらい前に起こった出来事だ。私はその頃、私たちの機関の一つである神戸アドベンチスト病院で事務職として働いていた。そういう私にどうして電話がかかってきたのか今は定かではない。朝5時頃だった。電話先では「有馬警察署です。署に今、お宅の病院の職員らしい方の遺体を安置しています。確認しに来てください。」と言う。私は「はい、わかりました」と返事しすぐに出かけ、その遺体を確認した。その遺体は病院チャプレンをしておられた原友安先生であった。と同時になぜこんな事と思った。やがてその状況が見えてきた。先生はいつも祈りの場所を決めておられ、その場所から帰ってこられる途中、飲酒運転の車によって15メートルはね飛ばされて畑に落ち、それを新聞配達人に発見されて警察に運び込まれたという事である。私は最初、遺体確認を頼まれたと

## 第191回 チャプレン 上前 至

き、損傷も激しいのではないかと想像したが、損傷は外見からはほとんど見えず、わずかに左足首が折れてそこから骨が飛び出ているだけで、顔は穏やかでまるで眠っておられるかのようで、ほんとに安心した事を覚えている。そして何よりも私によりみがえってきた事は、先生がその事故の3日前に最後の礼拝説教をもたれ、その題が「主に会う備えをせよ」だったことだ。これは先生の最後の言葉であり、このことを私たちに一番言い残していきなかったのではないかと思います。それに対し私たちは個人を含め福祉事業体としても聖書の最後の言葉「アーメン、主イエスよ、来たりませ(マラナ・タ)」「ヨハネの黙示録22章20節」と答えられる福祉事業体でありたいものである。

